

アゲオ預言書

預言者アゲオ* (ヘブレオ語ハツガイ) は、バビロン流謫後に出た三人の預言者中、最初の人であつて、ザカリアと同時代に、イエルサレムで活動していた。

バビロンにいるユデア人たちに、帰国と聖殿再建との許しがキルスから与えられたのは、西紀前五百三十八年のことであつた。彼らは翌五百三十七年イエルサレムに帰着し、直ちにゾロバベルの下で建築に着手したが、サマリアから苦情が出て工事を中止しなければならなかつた。そこでアゲオが西紀前五百二十年に起つて工事の再開を切にすすめたのである。

これがかれの預言の精神であつて、その結びとしては、もうあまり遠くないメシア時代のことが述べてある。

* Aggeus アツゲオが本当であるが、教会従来の慣用に従う。

第一章

民聖殿造営を怠りたる廉によりて咎めらる—工事に着手すべしとの激励

一 ダリウス王^{おう}の二年^{ねんだい}第六月^{がこ}に至り^{いた}、その月^{つき}の一日^{ついちち}に、主^{しゅ}の御言^{みことば}預言者^{げんしゃ}アゲオの手^てを経て、サラチエルの子^こ、ユダの侯^{きみ}ゾロバベルと、ヨセデクの子^こ、大司祭^{だいしさい}イエズス²⁾とに下^{くだ}

第一章 1) ダリウス・ヒスタスピスの治世は西紀前五二一年から四八五年まで。—2) ヘブレオ語イエホーシユア。

二 三 四 五 六 七 八 九

れり、³⁾曰く、^二万軍の主かく云い給う、曰く、この民は「主の家を建つべき時未だ来らず」と云う。^三されど主の御言アゲオの手を経て下れり、曰く、^四この家かくも荒れ果ておるに、汝等板を張りたる家に住むべき時なるか。^五されば今、万軍の主かく云い給う、汝等己が途に意を用いよ。^六汝等は多く播きたれど収穫は少く、食いたれど飽かず、飲みたれど足らず、身に纏いたれど温まらず、賃銀を溜めたる者が之を入れたる袋には孔ありき。⁴⁾七万軍の主かく云い給う、汝等己が途に意を用いよ。^八山に登り、材を搬び来り、家を建てよ、さらば我之を嘉し、栄光を顕さん、⁵⁾と主云い給う。^九汝等多きを望みたるに、視よ、却つて少くなりぬ。また汝等之を家に持ち帰りしが、我之を吹き払えり。万軍の主云う、是は何故ぞ。そは、わが家荒れ果ておるに、汝等いずれも己が家に就きて急げばなり。^{一〇}この故に汝等に対しては、天も禁められて露を与えず、地も禁められて産物を出さずなりぬ。^二我なお地にも山にも、穀物にも葡萄酒にも、油にも地の生ずるすべての物にも、人

3) 主の御言葉は政治上、宗教上の両最高権威者に下つた。
 4) 汝らの労力には天主のおん祝福がなかつた
 一〇節以下参照。
 5) 汝らに恵みを垂れて。

二一にも畜けものにも、またあらゆる手業てわざにも、早魃かんぼつを招まねき下くだせり。二三是ことにおいて、サラチエルの子こゾロバベル及びおよヨセデクの子こ大司祭だいしさいイエズス、ならびに民たみの遺のこれる者もの皆みな、主しゆその天主てんしゆの御声みこえと、預言者よげんしやアゲオの言ことばとに聴き従したがえり、そは主しゆその天主てんしゆが彼かれを彼等かれらの許もとに遣つかわし給たまひたればなり。かくて民主たみしゆの御面前みまへに懼おそれ畏かしこみぬ。二三その時とき主しゆの使者等つかいたちの中うちの主しゆの使者つかいアゲオ、民たみに語かたりて云いいけるは、我われ汝等なんじらと共に在あり、と主しゆ云い給たまう、と。二四主しゆ、サラチエルの子こ、ユダの侯きみゾロバベルの意気いき、及びおよヨセデクの子こ、大司祭だいしさいイエズスの意気いき、ならびに民たみの遺のこれる者もの一同どうの意気いきを奮起ふるいたたしめ給たまひしかば、彼等かれら入りてその天主てんしゆなる万軍ばんぐんの主しゆの家いえの工事こうじをなせり。

第二章

新築の聖殿は前のにまさる—メシアの御国の栄え

一そはダリウス王おうの二年ねんだい第六月がつに入りて、その月つきも二十四日かのことなり
 二き。り然しかるに第七月がつに至いたり、その月つきの二十一日にちに、主しゆの御言みことば預言者げんしやアゲオの手てを経て下くだれり、曰いわく、三サラチエルの子こユダの侯きみゾロバベル、ならび

第二章 1)へ
 プレオ語本に
 よれば第一章
 の最終節。

九 満たさん、と万軍の主云い給う。九 銀もわが有なり、金もわが
 八 我天地海陸を震撼さん。八 我また万国の民を震撼さん。4) かく
 七 るなかれ。七 それ、万軍の主かく云い給う、今一少時にして、
 六 万軍の主云い給う、汝等がエジプトの国より出でし時、わが
 五 ざながら無きが如く映ずるにあらずや。五 主云い給う、さりな
 四 云え、この家が前の栄にありしを見し者にして、なお汝等の
 中に遺れるは誰ぞ。汝等今之を如何にか見る。是は汝等の目に
 がらゾロバベルよ、今奮い起て。ヨセデクの子大司祭イエズス
 よ、奮い起て。万軍の主云い給う、この地のすべての民よ、奮
 い起て。しかしてなしとげよ（実に我汝等と共にあるなり、と
 汝等に契りし言³⁾を。さらばわが霊汝等の中央にあらん、懼る
 三 云え、この家が前の栄にありしを見し者にして、なお汝等の
 中に遺れるは誰ぞ。汝等今之を如何にか見る。是は汝等の目に
 がらゾロバベルよ、今奮い起て。ヨセデクの子大司祭イエズス
 よ、奮い起て。万軍の主云い給う、この地のすべての民よ、奮
 い起て。しかしてなしとげよ（実に我汝等と共にあるなり、と
 汝等に契りし言³⁾を。さらばわが霊汝等の中央にあらん、懼る
 二 云え、この家が前の栄にありしを見し者にして、なお汝等の
 中に遺れるは誰ぞ。汝等今之を如何にか見る。是は汝等の目に
 がらゾロバベルよ、今奮い起て。ヨセデクの子大司祭イエズス
 よ、奮い起て。万軍の主云い給う、この地のすべての民よ、奮
 い起て。しかしてなしとげよ（実に我汝等と共にあるなり、と
 汝等に契りし言³⁾を。さらばわが霊汝等の中央にあらん、懼る
 一 云え、この家が前の栄にありしを見し者にして、なお汝等の
 中に遺れるは誰ぞ。汝等今之を如何にか見る。是は汝等の目に
 がらゾロバベルよ、今奮い起て。ヨセデクの子大司祭イエズス
 よ、奮い起て。万軍の主云い給う、この地のすべての民よ、奮
 い起て。しかしてなしとげよ（実に我汝等と共にあるなり、と
 汝等に契りし言³⁾を。さらばわが霊汝等の中央にあらん、懼る

2) 本一・一とその註参照。
 3) 契約。——4) アツシリア、
 エジプト、カルデアの各
 国がすでに滅びたので、
 ペルシヤ国の滅亡も期待
 できる。ギリシヤ国とロ
 ーマ国とは天主の御摂理
 によつてメシアの救いの
 宣伝弘布に道をひらくは
 ず。——5) ヘブレオ語本で
 は「待望されたる者」と
 いう具体的な語の代りに
 「希望」という抽象的な
 語が用いてあつて、動詞
 が複数形になつている。
 しかし意味はやはり同一
 で、後者は「メシアの時
 代のあらゆる恵み」の義。

一〇 有なり、と万軍の主云い給う。一〇この後の家の栄光は前のよりも大なるべし、⁶⁾と万軍の主云い給う。我この処にありて平安を与えん、と万軍の主云い給う。二ダリウス王の二年、第九月二十四日に、主の御言預言者アゲオに下れり、曰く、三万軍の主かく云う、司祭等に律法のことを問いて云え、^三人もしその衣服の裾に聖別したる肉を入れて搬び、その裾をパン、^{あるいすいもの}或は吸物、^{あるいぶどうしゆ}或は葡萄酒、^{あるいあぶら}或は油、^{あるいなに}或は何かの食物に触れなば、その物聖くなるべきか。司祭等答えて、否、と云えり。⁷⁾ 一四 アゲオ乃ち云いけるは、屍に触れて⁸⁾汚れたる者、もし是等諸々の物に触れなば、そは汚るべきか。司祭等答えて云いけるは、汚るべし、と。一五 時にアゲオ答えて云いけるは、主云い給う、わが面前には、この民もかくの如し、この国人もかくの如し、またその手の業も悉くかくの如し。しかして彼等の彼処⁹⁾に献げたる物も皆汚れてあらん。一六 また今汝等の心に、この日より遡り、主の聖殿にて石の上に

6) ゴロバベルの建てた聖殿はサロモンのそれに劣つてゐるけれども、メシアである神人がそこへおいでになるので、一層尊い。
7) 天主に犠牲として捧げられた肉はただレヴィ族の規定による潔き者と司祭とだけが食べることが許されていた。—8) ヴルガタ原語 in anima 「命にかかわること」で。—9) 工事のまだすまない聖殿

一七 石を置かれし前のことを思い出でよ。一七その時には、汝等樹に二十杯の麦
 束の所に行きて見れば十杯となり、酒搾場に入りて桶に五十杯搾らんとす
 一八 れば、二十杯となりにき。10) 一八我灼熱の風もて汝等を、黒穂病と雹ともて
 汝等の手のすべての作を打てり、されどわが許に立ち帰りし者、汝等の中
 一九 に一人もあらざりき、と主云い給う。11) 一九汝等この日より将来のことに意
 を用いよ、即ち第九月の二十四日より、主の聖殿の基礎が据えられしその
 二〇 日よりのことを意に留めよ。二〇種子は既に芽を出せるか、葡萄の樹、無花
 果の樹、石榴の樹、橄欖の樹は未だ花咲かざるか。我その日より祝福を下
 二二 さん。三月の二十四日に、主の御言またもやアゲオに下れり、曰く、二三ユ
 二三 ダの侯ゾロバベルに告げて云え、我天地を共に震撼さん。二三我、国々の王
 座を覆し、異邦人の統治の権力を挫き、戦車と之に乗る者とを覆さん。
 二四 馬と之に騎る者とは各人その兄弟の剣に仆るべし。二四万軍の主云い給う、
 サラチエルの子、わが下僕ゾロバベルよ、その日には我汝を取り、汝を

10) 汝らの己が
 田畑に天主の
 御祝福を蒙ら
 ないのは、聖
 殿の工事を始
 めた時と同じ
 く熱心に続け
 ないから。
 11) 歴四・九。

印^{しる}₁₂₎の如^{ごと}になさん、と主^{しゆい}云^い給^{たま}う、蓋^そは我^{われ}汝^{なんじ}を^{えら}選^{えら}みたればなり、と万^{ばん}軍^{ぐん}の主^{しゆい}云^い給^{たま}う。

12) 印鑑付き指環(集四九・一一参照)
とは、即ちわが最も貴重な所有物。